

## 手指・皮膚及び医療機器の消毒に…

## 殺菌消毒剤

日本薬局方

## 消毒用エタノール

消毒用エタノール「ケンエー」

Ethanol for Disinfection



## ■ 組成・性状

## 〈有効成分〉

100 mL中

日局 エタノール 83mL

(エタノール (C<sub>2</sub>H<sub>6</sub>O) 76.9~81.4vol%を含有する。)

## 〈性状〉

無色透明の液である。

## ■ 効能又は効果

手指・皮膚の消毒、手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療機器の消毒

## ■ 用法及び用量

本品をそのまま消毒部位に塗布する。

## ■ 包装

500mL（ガラス瓶）、500mL（角型ポリエチレン瓶）、500mL（丸型ポリエチレン瓶）、1000mL（ポリエチレン瓶）、2L（ポリエチレン容器）、5L（ポリエチレン容器）、10L（ポリエチレン容器）、16L（アトロン缶）

## 2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

損傷皮膚及び粘膜には使用しないこと [刺激作用を有する]

詳細は、D.I. 欄又は電子添文等をご参照ください。

# 減容ボトル採用によりゴミ削減



- 500mL（角ポリ）、1000mL、2L、5L  
折りたたみが容易な減容ボトルを採用していますので、使用後の  
ゴミを減らし、廃棄処理コストが削減できます。

## DRUG INFORMATION

商品名		和名	日本薬局方 消毒用エタノール	
承認番号		洋名	Ethanol for Disinfection	
製造販売元	健栄製薬株式会社		薬価基準収載年月	1986年3月
日本標準商品分類番号	872615		販売開始年月	1994年11月
薬効分類	殺菌消毒剤		貯 貯 法	室温保存
規制区分	普通薬		有効期間	3年
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 損傷皮膚及び粘膜には使用しないこと [刺激作用を有する]		15. その他の注意		
3. 組成・性状		15.1 臨床使用に基づく情報		
3.1 組成		承認外の経皮的エタノール注入療法（PEIT）使用例で、注入時の疼痛、酩酊感、発熱、本剤の局所外流出による重篤な胆道・腹腔内等での出血、肝梗塞、肝不全等が報告されている。		
有効成分	100 mL中 日局 エタノール 83mL (エタノール (C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O) 76.9~81.4vol%を含有する。)	18. 薬効薬理		
3.2 製剤の性状		18.1 作用機序		
性状	無色澄明の液である。	菌体膜を透過し溶菌、タンパクの変性、原形質阻害、代謝機能障害を起こす。		
4. 効能又は効果		18.2 抗菌作用		
手指・皮膚の消毒、手術部位（手術野）の皮膚の消毒、医療機器の消毒		本剤は、使用濃度において栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、酵母菌、ウイルス等には有効であるが、芽胞（炭疽菌、破傷風菌等）及び一部のウイルスに対する効果は期待できない。		
6. 用法及び用量		19. 有効成分に関する理化学的知見		
本品をそのまま消毒部位に塗布する。		一般名称：エタノール（Ethanol） 化学名：Ethanol 化学構造式： $\begin{array}{c} \text{H}_3\text{C} \quad \text{OH} \\ \diagdown \quad / \\ \text{C} \\ / \quad \backslash \\ \text{H} \quad \text{H} \end{array}$		
11. 副作用		分子式：C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O 分子量：46.07 性状：無色澄明の液である。水と混和する。燃えやすく、点火するとき、淡青色の炎をあげて燃える。揮発性である。 比重 d <sub>15</sub> <sup>15</sup> ：0.79425（100%）		
11.2 その他の副作用		20. 取扱い上の注意		
過敏症	発疹等	火気を避けて保存すること。		
皮膚	刺激症状	22. 包装		
14. 適用上の注意		500mL（ガラス瓶）、500mL（角型ポリエチレン瓶）、500mL（丸型ポリエチレン瓶）、1000mL（ポリエチレン瓶）、2L（ポリエチレン容器）、5L（ポリエチレン容器）、10L（ポリエチレン容器）、16L（アトロン缶）		
14.1 薬剤使用時の注意				
14.1.1 外用にのみ使用すること。				
14.1.2 眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。				
14.1.3 エタノール蒸気に大量に又は繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがあるので、広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。				
14.1.4 同一部位に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。				
14.1.5 本剤は血清、膿汁等のタンパク質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、これらが付着している医療機器等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。				
14.1.6 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等には、変質するものがあるので、このような器具は長時間浸漬しないこと。				
14.1.7 引火性があり、爆発の危険性もあるため、火気（電気メス使用等も含む）には十分注意すること。				
14.1.8 電気メス等を使用する場合には本剤を乾燥させ、アルコール蒸気の拡散を確認してから使用すること。電気メスによる発火事故が報告されている。				

- 電子添文の改訂に十分ご留意ください。
  - 詳細は電子添文をご参照ください。
- 電子添文：2023年4月改訂（第1版）

### 文献請求先及び問い合わせ先

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。  
健栄製薬株式会社 学術情報部  
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号  
電話番号 06 (6231) 5822 FAX番号 06 (6204) 0750